

医療の質向上・安全推進センター（QSセンター）

1. スタッフ（2021年4月1日現在）

センター長（医師）	新保 昌久	（専任）
副センター長（医師）	味村 俊樹	（専任）
医 師	◎野本 佳恵	（専従）
看 護 師	◎相場 雅代	（専従）
看 護 師	◎飯田 久子	（専従）
薬 剤 師	◎霜多 博孝	（専従）
看 護 師	井上佐代子	（専従）
（◎ 専従医療安全管理者）		

【安全推進部門】

部 門 長（医師）	新保 昌久	（専任）
副 部 門 長（医師）	佐久間康成	（兼）
副 部 門 長（医師）	齋藤 修	（兼）
副 部 門 長（医師）	門田 行史	（兼）
副 部 門 長（医師）	藤井 裕之	（兼）
副 部 門 長（看護師）	亀田美智子	（兼）
医 師	渡邊 俊司	（兼）
医 師	高橋 詳史	（兼）
医 師	薄井 佳子	（兼）
教 員	前田 佳孝	（兼）

【質向上・臨床倫理部門】

部 門 長（医師）	味村 俊樹	（専任）
副 部 門 長（医師）	堀江 久永	（兼）
教 員	鈴木 義彦	（兼）

【医薬品・医療機器安全管理部門】

部 門 長（医師）	今井 靖	（兼）
副 部 門 長（医師）	川人 宏次	（兼）
薬 剤 師	片野 昌宏	（兼）
臨床工学技士	木村 好文	（兼）

【渉外担当部門】

部 門 長（医師）	新保 昌久	（専任）
-----------	-------	------

事 務 8 名

2. 医療の質向上・安全推進センターの特徴

院内で発生した医療安全上の諸問題に組織横断的に対応するため、2003年4月に病院長直轄組織の「医療安全対策室」を設置、2004年には「医療安全対策部」に改称し、2005年には専任の医師1人、看護師長2人を配置した。医療安全対策部は、院内インシデント報告制度の整備、職員研修の実施、事例分析、院内巡視、有害事象後の対応等、院内の安全管理に関する多様な業務を担当してきた。

更に2017年4月に、高度医療を提供する特定機能病院における医療の質・安全管理体制を強化するため、新

たな医療安全管理部門として、「医療の質向上・安全推進センター」（略称：QSセンター）に改組した。新たな名称には、事故発生時の危機管理だけでなく、「平時の医療の質の向上が医療安全につながる」という理念と、「より前向きな取り組みで医療安全を推進していこう」という意気込みを込めている。QSセンターは、安全推進部門（インシデント報告の収集・分析、有害事象の原因究明、医療安全管理指針・各種マニュアルの整備、院内巡視による確認・指導など）、質向上・臨床倫理部門（高難度新規医療技術及び特定診療に関する審査・モニタリング、臨床倫理への対応など）、渉外担当部門（有害事象・訴訟への対応など）に加え、2019年4月から医薬品・医療機器安全管理部門（未承認新規医薬品、未承認新規医療機器に関する評価・モニタリング・監査への対応など）が設置され、それぞれ専従、専任、兼務スタッフ及び各部門のQSマネージャーと連携して、医療の質と安全を高める取り組みを進めている。

3. 実績・クリニカルインディケーター

●業務内容

- （1）医療安全に関する情報収集、分析、改善策の立案、周知、評価
- （2）医療安全対策の提案・情報提供（啓発活動）
- （3）医療の質向上・安全推進委員会、QSマネージャー会議の開催
- （4）職員に対する教育（講習会、研修会の開催）
- （5）全死亡症例の把握
- （6）有害事象発生時の支援
- （7）高難度新規医療技術及び特定診療に関する審査・モニタリング
- （8）インフォームドコンセントの適切な実施
- （9）臨床倫理に関する情報収集、連絡調整
- （10）未承認新規医薬品及び医療機器に関する審査・モニタリング・監査
- （11）医薬品・医療機器の安全使用のための情報収集、研修の実施
- （12）紛争事例への対応（総務課、患者サポートセンター医療福祉相談室と連携）

●2020年の主な活動実績

- （1）医療安全講習会（全職員対象）

①医療安全・感染対策合同講習会

開催日 7月17日

演 題 「医療安全2020

～再確認と新しい取り組み～」

医療の質向上・安全推進センター

センター長 新保 昌久

②医療安全・感染対策合同講習会

開催日 10月6日

演 題 「院内医療安全活動の紹介」

医療放射線安全推進センター

センター長 森 壘

医療機器安全管理部会

臨床工学部副技師長 木村 好文

医薬品安全管理部会

副薬剤部長 片野 昌宏

(2) 医療安全に関する研修会

①新QSマネージャーオリエンテーション

・QSマネージャーの役割編(毎月1回)

②研修医感染・安全技術研修(4月)

・採血、ルート確保、輸液ポンプ演習等

③研修医医療安全セミナー(5回)

④多職種合同医療安全研修会(4月)

・動画を用いたケースカンファレンス

⑤新人看護職員基礎技術研修(4月)

・安全確保1、2、3

⑥中心静脈カテーテル挿入技術認定研修会

・新規認定医 24名(5月)

(3) 医療安全管理指針、マニュアル改正等

①医療安全管理指針

②QSマネジメントマニュアル

③QSマネジメントマニュアル(ポケット版)

④医薬品の安全使用のための業務手順書

(4) 安全情報

①QSセンター発行

TheQ.S.Times(第31号～第42号)

②日本医療機能評価機構発行

医療安全情報(№158～№169)

③PMDA発行

医療安全情報(№59～№60)

(5) 医療の質・安全に関する事例検討会 3回開催

(6) 院内横断的活動

①人工呼吸管理安全対策チーム活動

②外来化学療法ワーキンググループ活動

③委託業者との連絡会

④中央手術部連絡会議

⑤医療材料審査委員会

⑥輸血療法委員会

(7) 院内巡視

月2回 計17回

参加者内訳

QSセンター員: 延べ155名

QSマネージャー: 85名

(8) 医療の質向上・安全推進委員会

毎月1回 第2火曜日

(9) QSマネージャー会議

隔月1回 第3木曜日

(10) モーニングカンファレンス

毎週水曜日

(11) ワーキンググループ活動

①院内急変時対応

②中心静脈カテーテル(CVC)挿入

③気管切開安全対策

④インフォームドコンセント(IC)

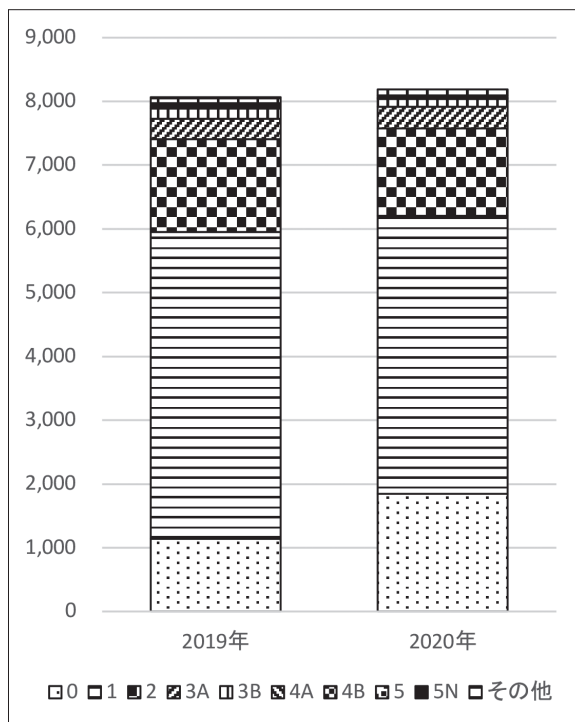
⑤CHDF

⑥静脈血栓塞栓症(VTE)予防対策

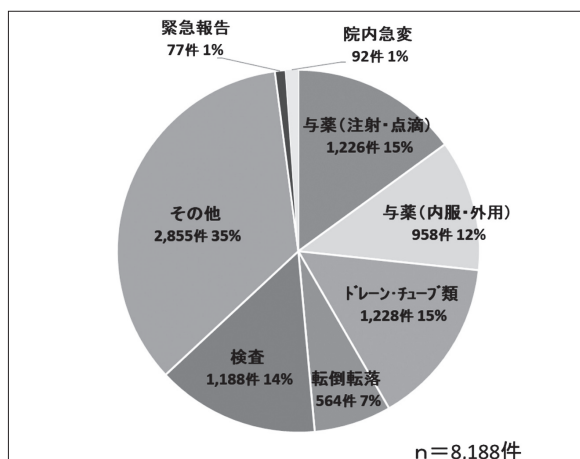
⑦転倒転落

(12) インシデント・アクシデントレポート

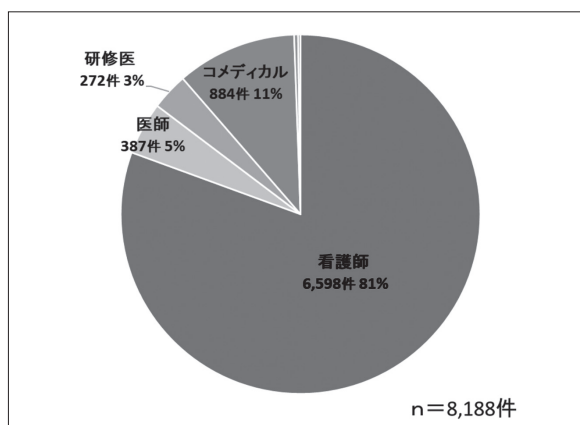
①報告件数比較(2019年、2020年: 1～12月)



②2020年 種類別報告一覧



③2020年 職種別報告一覧



(13) 日本医療機能評価機構との連携

- ・事例報告
- ・研修会の参加

(14) 社会、他の医療機関等に対する貢献

- ・患者安全・医療安全・医療の質に関する情報の提供、講師派遣

4. 2021年の目標・事業計画等

従来の業務に加え以下の諸事項を目標としている。

- ①QSマネージャーをリーダーとした各部署の医療の質向上と安全推進に向けた改善管理の計画的な実践
- ②臨床倫理に関する啓発
- ③インフォームド・コンセント（IC）に関する基本方針の啓発と活用状況の評価
- ④ワーキンググループ及び部会の活動強化
- ⑤画像診断結果の見逃し・見落とし防止対策の強化
- ⑥他部門との連携強化

これらの目標達成へ向けての努力と並行して、病院内での横断的なコミュニケーションが円滑に進むように支援していきたいと考えている。